

令和元年度 決算報告書

国立大学法人名古屋工業大学

(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)	備 考
収入				
運営費交付金	4,946	4,963	17	(注1)
うち補正予算による追加	-	1	1	
施設整備費補助金	190	184	△6	(注2)
うち補正予算による追加	-	-	-	
補助金等収入	28	136	108	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	20	20	-	
自己収入	3,583	3,548	△35	
授業料、入学料及び検定料収入	3,305	3,249	△55	(注4)
雑収入	278	298	20	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,055	2,707	652	(注6)
目的積立金取崩	83	83	1	(注7)
計	10,905	11,640	735	
支出				
業務費	8,612	8,495	△117	
教育研究経費	8,612	8,495	△117	(注8)
診療経費	-	-	-	
施設整備費	210	204	△6	(注9)
補助金等	28	136	108	(注10)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,055	2,369	314	(注11)
長期借入金償還金	-	-	-	
計	10,905	11,203	298	
収入－支出	-	437	437	

○予算と決算の差異について

(注1) 運営費交付金については、予算段階では予定していなかった特殊要因運営費交付金が交付されたことにより、予算額に比して決算額が17百万円多額となっています。

(注2) 施設整備費補助金収入については、不用額の返還により、予算額に比して決算額が6百万円少額となっています。

(注3) 補助金等収入については、受入額の増により、予算額に比して決算額が108百万円多額となっています。

(注4) 授業料、入学料及び検定料収入については、授業料免除額が見込額を上回ったことや、授業料免除・徴収猶予の申請が増加したことにより、予算額に比して決算額が55百万円少額となっています。

(注5) 雑収入については、主として予算段階では予定していなかったコンソーシアム会費収入の増収等により、予算額に比して決算額が20百万円多額となっています。

(注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、受託研究及び共同研究の受入れ増により、予算額に比して決算額が652百万円多額となっています。なお前期からの繰越額は266百万円となっています。

(注7) 目的積立金取崩については、期中に承認を受けた剰余金の執行により、予算額に比して決算額が1百万円多額となっています。

(注8) 教育研究経費については、特殊要因運営費交付金の繰越額が生じたことや、光熱水費の支出額が減少したことにより、予算額に比して決算額が117百万円少額となっています。

(注9) (注2)に示した理由等により、予算額に比して決算額が6百万円少額となっています。

(注10) (注3)に示した理由等により、予算額に比して決算額が108百万円多額となっています。

(注11) (注6)に示した理由等により、予算額に比して決算額が314百万円多額となっています。